

市川市小中養護学校長会
夏季研修会
幕張プリンスホテル

～教育のみらい、学校のゆくえ～
**選択・責任・連帯の
教育改革**

2000.7.28
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授(社会学)。1996年4月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。
著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『選択・責任・連帯の教育改革』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『性愛論』(岩波書店)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『正義・戦争・国家論』『天皇の戦争責任(仮題)』(以上、共著、径書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義2』(以上、夏目書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メタローク)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『研究開国』(共編著、富士通ブックス)ほか。
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/> hashizm@valdes.titech.ac.jp

□1□ 社会経済生産性本部とは?

- 1) 社会経済生産性本部 ……日本生産性本部が、社会経済国民会議と合体して、数年前にスタート。経済界のほか、労組代表、学識経験者などを加えたNGO組織。
- 2) 社会政策特別委員会 ……堤清二(セゾン文化財団)が委員長、佐和隆光(京大経済研究所教授)が主査。橋爪は、97年に参加して、専門委員長をつとめる。
- 3) 「選択・責任・連帯の教育改革」……98年7月に中間報告を発表。岩波ブックレットにその内容を要約。99年7月に最終報告を発表。勁草書房から、昨年12月に出版。
* 報告の骨子 ……「選択」=国民の主体性、「責任」=政府に頼るのをやめる、「連帯」=プロとしての誇りと信頼関係、をベースにして、学校教育を再構築しよう。

□2□ 教育の、どこがどう病んでいるのか

- 1) 日本の教育システムには、誰も満足していない →それなのに、変わらない
* 親は不満 ・学力がつかない ・競争が厳しい ・教師が頼りない ・いじめが多い
⇒そこで、塾や予備校に入れる、私学人気 学校教育に対する不信
* 教師も不満 ・親は自分勝手 ・生徒は暴れる ・待遇が悪い ・職場の人間関係
* 生徒も不満 ・授業が分からない、つまらない ・教師が勝手 ・受験がきつい
* 社会も不満 ・効率が悪い ・現実社会に役立たない ・研究のレベルが低い
- 2) 若者は、日本の教育を受けると元気がなくなる
* 大学に入ってから、「勉強が嫌い」「自分は何をしたらいい」と悩む若者が多い
⇒とにかく大学に入れ、大学に入れば何とかなる、ともの考えで過ごしてきた
* 知識への興味を失い、人生を生きる積極性を失い、他人任せで責任が欠如している
* 無規範(アミー)が深く進行し、社会性・公共性を理解しない世代が再生産されている
- 3) 教師集団は、教育力の源泉である「連帯」を見失っている
* 教育委員会の任用システム 校長以下、烏合の衆～責任を取らない「官僚」の集まり
* 何をいつ、どのように教えるか、現場の権限なし 教育者としての人格を喪失
* クラス一斉授業の害悪(落ちこぼれ/学力低下) 生徒の個性を育てるのは無理
* 手を抜いても待遇は同じ →だらけ教師が教師集団全体のムードを支配してしまう

□3□ 小・中学校の改革

- 1) 学区制を廃止する ⇐親(と子ども)の学校選択権(⇐親の教育権)
* 公立学校のあいだに、自然な学校間の競争が生まれる 学校はひとつの経営体に
* 学校ごとの個性や特色、父母への説明責任(ならびに結果責任)が求められる
- 2) 校長に、学校の経営権を与える
* 人事権 ……教頭、教員、事務員を雇用 待遇も決める リーダーシップを発揮
* 予算権 ……予算の用途を決める 人件費と事務費のバランス、学校の特色を明確に
* カリキュラム権 ……学習指導要領を廃止 クラス編成や進度を決める 結果で評価
* 校長の人材を養成する 教員と別の専門職能 大学に専門課程 副校長(見習い)制
- 3) 学校理事会が、学校経営を監督
* 学校理事会 親と地域の代表が、校長を監督 地域社会による選挙(認定投票)
* 校長の公募→公聴会→校長の任命→校長の報告を受ける→外部評価も参考に→再任?
* 教育委員会の、整理再編 ・学校理事会を支援 ・教員派遣機構～教員の異動の自由
- 4) 「義務教育」の再定義 相対評価→絶対評価 個々人のニーズに応じた教育
* 基礎教育 : 人間が人間らしく生きていく、市民生活の基礎を築く教育 ~小中学校
* 基本教育 : 日本社会の産業・経済・制度・科学技術・文化の基礎学力を与える教育 ~高等学校

□4□ 高等学校の改革 生徒の自己選択・学習責任

- 1) 高校入試の廃止 ⇐書類による入学者決定 ×偏差値輪切り、無気力・不適応
* 学校は、個人ごとの教育メニュー、多様なコースを用意
- 2) 高等学校学力検定試験(高検)を採用 ~高校教育を評価する外部規準 問題公表
* 高校卒業資格は、高検に一本化 基本教科の絶対評価、高1程度の簡単な試験
SAT型 絶対評価(資格試験) 年6回程度 外国人学校、留学生に開放
* 高検が高校のアイデンティティになる 小中学校の補習や多様な発展教育も自由に

□5□ 大学の改革

- 1) 大学入試の廃止 ⇐学生定員の廃止 +キックアウト制(単位の完全互換)
* 高検は、大学出願の基礎資格 加えて、他の資格(TOEFL など)を課してもよい
卒業基準は大学が決定 卒業基準、進級基準は事前公表 →混雑現象の予防
* 志望者は、収容できる限り入学させる ただし、コストを負担 @128-180万円/年
- 2) 奨学ローン、奨学金の充実
* 教育の機会均等 銀行が学資(学費+生活費)300万円/年を市中金利で貸与
300万円×300万人=毎年9兆円の減税効果 中高年の負担軽減、世代間公正
⇐学生のコスト意識を目覚めさせる 勉強に対する自覚・意欲が最優先
* 大学ごとの奨学金(学費免除) 成績と連動 優秀者は特待生→就職に有利
- 3) 研究開国
* 教員の任期制、年俸制 国立大学の全教員を、大学教員派遣機構に移管する
* 国立大学を、独立行政法人or私立大学に移行 外国人の雇用を促進 年金一元化
* 研究資源の配分を、多元的・競争的に 過程の管理ではなく、結果の管理を

ふくしま自治
研修センター

選択社会の幕あけ
選択・責任・連帯の社会 日本

2000. 8. 25
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動をへて、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション(全3巻)』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』(講談社)、『性愛論』(岩波書店)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『正義・戦争・国家論』(共著、径書房)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共編著・勁草書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『天皇の戦争責任(仮題)』(径書房・近刊)ほか。
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 90年代、空白の10年

1) 政治の空白

- ・保守/革新の終焉 → 保守分裂と非自民政権 → 自民+α政権 ~新しい対立軸が曖昧
- ・政治改革(中選挙区→小選挙区+比例区、政党交付金)の不徹底 恣意的な政権交替

2) 経済の空白

- ・バブルの後遺症(金融危機)による投資不足 …ゼロ金利、ゼロ成長、リストラ
- ・アメリカ優位の先端技術 …バイオ関連、情報関連(IT)、英語が世界標準に

3) 社会の空白

- ・歴史論争 …戦後的価値観(戦後民主主義)の見直し 社会党共産党の影響力低下
- ・無規範(アノミー)の蔓延 …若者の目標喪失、専業主婦の憂鬱、企業官庁の不祥事

□2□ 21世紀へ向けて、世界は確実に変化する

1) アメリカの動向

- ・唯一超大国としての世界戦略 軍事的優位、経済力の長期低落、多角的バランス
- ・日米同盟の変質 対ソ連→対北朝鮮→対中国(ガイドライン)→?

2) ヨーロッパの動向

- ・EU: 国民国家の壁を越える地域共同体 統一通貨、統一制度、統一議会
- ・NATOの変質 対ソ連→対ロシア&対中東&対バルカン&…

3) 中国・東アジアの動向

- ・統一コリアの誕生? 南北会談で、統一を共通目標として確認→7千万国家の登場
- ・中国の政治体制? 社会主義(=共産党)市場経済(=資本主義)の矛盾
- ・台湾問題 アメリカ:台湾の帰属は未定 中国:中国の国内問題 日本:発言権なし

4) 第三世界の動向

- ・人口増、貧困の再生産、飢餓の拡大 →経済発展の必要 →地球環境の壁に
- ・情報価格↓×エネルギー価格↑×食糧価格↑:世界のことはよくわかるのに貧しい

□3□ 選択社会とは何か

- 1) 選択 主体×複数の選択肢×意思決定×取消不可能 選択(自由) ↔ 管理
 - ・選択の独立性(無関連性):自分の選択は、他人の選択に左右されない
 - ・契約~相互選択 相手に選択されないリスク(失業、失恋…) 近代社会=Σ選択
- 2) 責任 選択をした主体は、選択の結果を引き受ける 自己責任
 - ・機会の平等~結果の不平等 競争(事前に結果がわからない)~選挙、市場
 - ・封建社会:世襲(個人の運命は親次第)→近代社会:選択(個人の運命は本人次第)
- 3) 連帯 機械的連帯(同じだから助け合う)→有機的連帯(違うから助け合う)
 - ・選択にもとづく集団形成 夫婦・家族、学校、企業、政党、NGO、政府
 - ・政府・地方自治体は、市民(選択の主体である個人)の責任(納税)と連帯の産物

□4□ 21世紀、日本は復活できるか

- 1) 日本の21世紀戦略 ~文化の創造的価値を重視
 - ・「科学技術創造立国」路線 独創性&言語バリアの突破&高品質&低価格&実用性
 - ・国際分業のなかに活路を見出す 日本市場→世界市場 企業行動の世界標準化
 - ・「人民」のための政府・制度・社会の建設を! 無党派の時代・選択の時代
- 2) 政治の改革 ~意思決定力の強化
 - ・国会の機能強化 次点歳費制(議員を半分に) 調査・立法機能の充実
 - ・中央省庁の再編・簡素化・規制緩和 地方分権 地方政府の自立
- 3) 企業社会の改革 ~経済体質の強化
 - ・戦後社会は、資本主義でなかった! 配当が低い=株主不在/累進課税/資産課税
⇒持株会社の復活 ベンチャー企業育成(自由競争、直接金融)
 - ・入り口文化、年次別管理からの脱却 インターンシップ/年俸制/自由移動
- 4) 教育の改革 ~新しいタイプの日本人形成を
 - ・小中学校:学区制の廃止、校長に経営権(含人事権)を、学校理事会の設置
 - ・高校:入試廃止、高検(高等学校学力検定試験)の導入、個人カリキュラムの編成
 - ・大学:入試廃止、学費アップ×奨学ローン×大学ごとの奨学金、研究ポスト公開
- 5) 東アジア国家としての再出発
 - ・公民権制度を導入 →在日外国人を日本社会の正規メンバーに →統一コリアに対応
 - ・アジア諸国共存のための国際秩序を アメリカのプレゼンスを重視しよう

産業技術短期大学 第54回・管理者セミナー

2000.8.30

人材開発センター

於：NKK経営研修所

日本の明日を考える

.....

橋爪大三郎（東工大）

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション（全3巻）』（以上、勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『性愛論』（岩波書店）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』『正義・戦争・国家論』（以上、共著、径書房）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』（共著、富士通経営研修所）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著、勁草書房）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『天皇の戦争責任（仮題）』（共著、径書房・近刊）ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 超産業社会がやって来る

- 1) ビル・ゲイツの予言：「情報ハイウェイ」時代の到来 IT革命が始まる
 - ・計算コスト低下→パソコン革命 通信コスト低下→情報通信革命
- 2) レスター・ブラウンの予言：環境制約（地球温暖化）の深刻化
 - ・石油、ウランの枯渇→エネルギー価格高騰 石炭代替は無理 熱縮が課題に
- 3) マルサス→ローマ・クラブの予言：食糧不足の深刻化
 - ・人口爆発と食糧生産の伸び悩み→食糧価格の高騰 局地紛争→世界規模の紛争へ
- 4) 情報価格↓×エネルギー価格↑×食糧価格↑（資源／情報ギャップの拡大）
 - ：世界のことはよくわかるようになるが、問題は解決できない。

□2□ 21世紀へ向けて、世界は確実に変化する

- 1) アメリカの動向
 - ・唯一超大国としての世界戦略 軍事的優位、経済力の長期低落、多角的バランス
 - ・日米同盟の変質 対ソ連→対北朝鮮→対中国（ガイドライン）→？
- 2) ヨーロッパの動向
 - ・EU：国民国家の壁を越える地域共同体 統一通貨、統一制度、統一議会
 - ・NATOの変質 対ソ連→対ロシア&対中東&対バルカン&…
- 3) 中国・東アジアの動向
 - ・統一コリアの誕生？ 南北会談で、統一を共通目標として確認→7千万国家の登場
 - ・中国の政治体制？ 社会主義（＝共産党）市場経済（＝資本主義）の矛盾
 - ・台湾問題 アメリカ：台湾の帰属は未定 中国：中国の国内問題 日本：発言権なし

4) 第三世界の動向

- ・権利としての経済発展←→環境制約 先進国エゴを糾弾する世界思想or世界宗教

□3□ 90年代、空白の10年

1) 政治の空白

- ・保守／革新の終焉 →保守分裂と非自民政権→自民+α政権 ～新しい対立軸が曖昧
- ・政治改革（中選挙区→小選挙区+比例区、政党交付金）の不徹底 恣意的な政権交替

2) 経済の空白

- ・バブルの後遺症（金融危機）による投資不足 …ゼロ金利、ゼロ成長、リストラ
- ・アメリカ優位の先端技術 …バイオ関連、情報関連（IT）、英語が世界標準に

3) 社会の空白

- ・歴史論争 …戦後的価値観（戦後民主主義）の見直し 社会党共産党の影響力低下
- ・無規範（アノミー）の蔓延 …若者の目標喪失、専業主婦の憂鬱、企業官庁の不祥事

□4□ 21世紀、日本は復活できるか

1) 日本の21世紀戦略 ～文化の創造的価値を重視

- ・「科学技術創造立国」路線 独創性&言語バリアの突破&高品質&低価格&実用性
- ・国際分業のなかに活路を見出す 日本市場→世界市場 企業行動の世界標準化
- ・「人民」のための政府・制度・社会の建設を！ 無党派の時代・選択の時代

2) 政治の改革 ～意思決定力の強化

- ・国会の機能強化 次点歳費制（議員を半分に） 調査・立法機能の充実
- ・中央省庁の再編・簡素化・規制緩和 地方分権 地方政府の自立

3) 企業社会の改革 ～経済体質の強化

- ・戦後社会は、資本主義でなかった！ 配当が低い⇒株主不在／累進課税／資産課税 ⇒持株会社の復活 ベンチャー企業育成（自由競争、直接金融）
- ・入り口文化、年次別管理からの脱却 インターンシップ／年俸制／自由移動

4) 教育の改革 ～新しいタイプの日本人形成を

- ・小中学校：学区制の廃止、校長に経営権（含人事権）を、学校理事会の設置
- ・高校：入試廃止、高検（高等学校学力検定試験）の導入、個人カリキュラムの編成
- ・大学：入試廃止、学費アップ×奨学ローン×大学ごとの奨学金、研究ポスト公開

5) 東アジア国家としての再出発

- ・公民権制度を導入 →在日外国人を日本社会の正規メンバーに →統一コリアに対応
- ・アジア諸国共存のための国際秩序を アメリカのプレゼンスを重視しよう

○課題

I) あなたが政府の首脳であったとして、これからの日本がとるべき優先課題として重要なものを、以下のなかから3つ程度選んで下さい(コストについても考えて下さい)。

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1) 地方分権を進め、中央政府の権限を縮小する | コスト?
地域格差が拡大する |
| 2) 高齢化社会にそなえ、福祉や医療を充実する | 若年世代の負担増をまねく |
| 3) 農産物の輸入を自由化し、農家保護をやめる | 兼業、小規模農家が淘汰される |
| 4) 行財政改革を進め、小さな政府を実現する | 低所得者の福祉切り捨てを招く |
| 5) 公共事業を増やし、政府の機能を強化する | 税負担が増え、財政も硬直化 |
| 6) 防衛費を大幅カットし、平和外交を進める | 日米安保など安全保障が揺らぐ |
| 7) 中国、韓国などアジア諸国との提携を強める | 日米同盟の基礎がゆらぐ |
| 8) アメリカとの同盟を強化、安全保障の柱に | 中国などアジア諸国との摩擦 |
| 9) 中央省庁の許認可、規制緩和を大胆に進める | 外資が国内市場に多数進出する |
| 10) 外国人の入国基準をゆるめ、移民を進める | 社会的コストが増大する |
| 11) 雇用確保を重視、積極的経済運営を進める | 財政負担増、国際競争力が弱まる |
| 12) IT、バイオなど先端部門を育成強化する | 不況業種で雇用調整が拡大する |
| 13) その他(具体的に……) | |

Qあなたが作りたいのは、どんな日本ですか?(具体的なイメージをのべる)

II) 以上の課題をおえたら、隣りの人の答案と交換して、要点を書き写してください。

III) 互いの答案について、討論して下さい。

IV) 討論の結果(特に、どのような点を批判されたか)を、簡単にまとめて下さい。

解答用紙

氏名

I) あなたが選択した政策は、

()

()

()

()

あなたが作りたいのは、どんな日本ですか?

(なるべく、具体的に)

[

2) 隣りの人の解答

()さん

()

()

()

()

隣りの人が作りたい

日本は……

IV) 討論の結果

2000-5-(4)

VALDES懇話会
ハーバードみたま記

2000.9.20
橋爪大三郎

教授のつくり方（ハーバードの場合）

- 1) 人事の提案：学科の教授たち→学部長
のぞましい専門分野などについて説明する
GOとなったら、2)に進む
- 2) 小委員会をつくる
候補者1、2名の本一冊を、みんなで読む
討論
A氏がよさそうとなったら、3)に進む
- 3) ブラインド・レター
A氏を含む10人前後の学者の名前を並べ、その評価を、全国、全世界の学者に
手紙で尋ねる。誰の人事だかわからないので、ブラインド・レターという。
返事の手紙は、そのまま学部長に届ける。
A氏の評価が高ければ、4)に進む
- 4) アドホック委員会
メンバー：学長、学部長、学内の専門家数名、学外の専門家の6～8名
 - ① 学科の教授たちを順番（個別）に喚問して証言させる。質疑応答。
 - ② 委員会のメンバーが、個別に学長に意見をのべる。
 - ③ 学長から質問→委員が個別に補充の意見をレターで提出
 - ④ 学長が教授の採否を決定。

参考……教授（テニュア）一人につき、400万ドルの基金が必要。

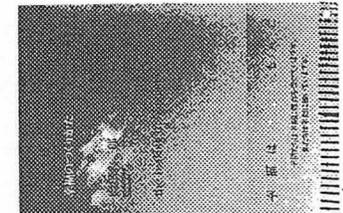
おまけ

公明新聞 2001年1月15日

「教育改革」論議を考えるためのブックガイド

際立つ「学力低下」への危機感 硬直した「大人のまなざし」に注文も

一九九八年に社会経済生産性本部が出した「教育改革に関する中間報告書」は「大学入試の廃止」を打ち出したことと話題を呼んだ。大学が大衆化した現在では入試には意味がないとして、廃止したうえで学生定員の廃止や成績が基準に満たない者へのキックアウト制（留年・中退）の導入を提案している（この改革案は堤清二・橋爪大三郎共編著『選択・責任・連帯の教育改革【完全版】』として出版）。この改革案の起草の中心になった東工大教授（社会学）の橋爪大三郎氏は『幸福のつくりかた』（ポット出版 一九〇〇年）【写真】の第二章「幸福な学校」で噛み砕いた形で「教育改革の基本的な考え」



「小・中学校の改革」「高校の改革」「大学の改革」について論じている。

□経済同友会□

次代を考える会

於 リアルGINZA8

NPOの社会学

2000. 10. 5

橋爪大三郎

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション(全3巻)』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『性愛論』(岩波書店)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『ゴーマニズム思想講座 正義・戦争・国家論』(以上、共著、径書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『研究開国』(共著、富士通ブックス)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著、勁草書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『三島由紀夫vs東大全共闘1969-2000』(共著、藤原書店)、『天皇の戦争責任』(共著、径書房・近刊)ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ NPOとNGO

1) 近代経済学モデル H: household 家計; consumer消費者 基礎消費する社会システム

P: firm 企業 商品生産し利潤追求する組織

G: government政府 税金をとり多目的な活動をする組織

それ以外のもの……教会、コミュニティ(地域社会)、大学、財団、任意団体など

近代化は、中間集団が解体され、H、P、Gに還元されていく過程

2) NGO、NPOは、近代経済学モデルに対する、アンチテーゼ(反対概念)

$NGO = \Omega \sim G$ $NPO = \Omega \sim P$

NPOへの寄附は、税金から控除される(なぜ?)

□2□ NPOの問題点

1) 組織の評価関数(監査プロセス)

G……選挙での信任(納税者の投票)

P……商品が売れる(消費者の満足)/株主への配当(資本家の満足)

H……結婚の継続(愛情の確認)・世代の再生産

2) NPOは、明確な評価関数(監査プロセス)がない

宗教法人、特殊法人は墮落する(なぜ?)

大学、病院は墮落する(なぜ?)

□3□ 日本的なNPOの特殊事情

1) 明治維新の秘密

・中間団体(藩、村落、講……)の解体 税(地租)の設定→国家による資本蓄積

・天皇-政府-企業・学校・……個人(臣民)

天皇制 すべての組織、個人は国家目的に邁進せよ NPO、NGOは不可

2) 日本株式会社 すべての企業は監督官庁が指導する NGOは特殊法人

←総力戦体制の遺物 統制、指導、規制、許認可(GのPに対するヘゲモニー)

・政党(NGO)の未熟 ……Gが政策立案・決定を左右

□4□ NPOは次代のカギを握るか

1) NPOは、プロジェクト・ベースの結社である

NPOは共同体ではない 共同体:多目的で、存続を自己目的とする(含むG)

→NPOは、契約にもとづいてH、P、G、NPOが資源を抛出し、運営に参画する

2) NPOは採算がとれる(市場原理の内部で存続できる)とは限らない

採算がとれるなら、企業化できる(企業化したほうがいい)

NPOのプロジェクトに公共性が強い場合、税負担を免除され、採算点が低くなる

採算がとれない場合、継続的な、資源の抛出(投入)が必要になる(一種の税)

3) NPOは、市場経済のなかで、Pと共存する

NPOがPでないのは、

労働力資源の投入がボランティア・ベース(労働ではなく、やりたいことをやる

やりがい重視) →自己搾取(やりすぎ)に転化する可能性あり

資本・土地の投入がボランティア・ベース(公的資金、寄付金を集める)

4) NPOとPが競合するなら、Pのほうがいいのでは

日本育英会の奨学金(税負担は国民に) vs 銀行の奨学ローン(自己責任)

5) 地域通貨やクーポンとの関連

市場:貨幣のある交換経済 貨幣が異なれば、市場が異なる(例:各国通貨)

通貨とは異なる交換手段を設定しようとするれば、通貨との交換性を制限しなければ

ならない 例:アメリカの食糧クーポン(転売できない)

献血預金

介護点数の貯金

このような特殊通貨は、市場の交換(資源配分)を不完全とするので、市場本来の

効率性をその分だけ損なう

→それをカバーするだけの、積極的な目的がなければいけない

天皇の戦争責任

橋爪大三郎

□ 動機

- 1) 従来の不毛な対立 “保守／革新” 図式の反映 (お気楽な戦後二元論)
 - なにかなんでも天皇が有罪でないといふ気がすまない〜社会主義・共和制・市民主義
 - なにかなんでも天皇が神聖でないといふ気がすまない〜保守主義

→ 結論の決まった有罪論、無罪論

2) 加藤典洋

天皇の戦争責任

□ 責任

- 1) ヤスパーズの責罪論 刑法上の / 政治的な / 道徳的な / 形而上的な
- 2) 東京裁判 無罪
- 3) 主権 / 統帥権 明治憲法体制

□ 天皇の行動

- 1) 私生活
- 2) 張作霖爆殺事件 満州事変 日華事変
- 3) 2・26事件
- 4) 開戦
- 5) 終戦
- 6) 退位

□ トンネル論

- 1) アメリカの価値
 - 2) 日本の価値観 公民として戦争に赴くことは断じて正しい
- トンネル〜プロジェクト

2000-5-6

(第3種郵便物認可)

2000.10.12 新刊 月刊 本日 熊本

この本は三人の戦後世代の論客が、あの多大な犠牲者を出した戦争の責任の所在を巡って、当時の資料や証言、既存の責任論などを精密に検証しながら、当時における「侵略」の意味、天皇の戦争責任の有無、現在および未来における天皇制の命運についてまで徹底的に論争した五百六十ページにおよぶ大書である。一口でいって、たぐひりつとブルコースを味わったような面白さと充実感が残る。よびや「こまごま」の執着のエネルギーに感嘆するともに、編纂者の努力にも脱帽する。

この本の面白さは大きく二つに分かれる。一つは、とくに第二部で、昭和史と天皇との具体的ななかかわりを追認して、そこから昭和天皇の姿像をおぼろげに浮かべている部分である。ここでは、明治国家の成立期間から発して、昭和天皇が国家元首として多少とも関与した張作霖爆殺事件、満州事変、二・二六事件、日華事変、日米開戦、終戦、戦後の「人間天皇」宣言などの経緯が、現代歴史絵巻のようによく克明にたどりかたれている。

もう一つは、竹田氏を名目とした、加藤、橋爪両氏の「天皇の戦争責任」の有無を巡るバトルである。簡単にいうと加藤氏によれば、戦中における天皇の決断の仕方は「結果オーライ」の事後追認に終始するものであり、それよりも重要なのは、戦後において、死者たちの声に對して天皇が沈黙を答えたことだ。

「天皇の戦争責任」 加藤典洋・橋爪大三郎・竹田青嗣著

戦後世代の3人が徹底論争 昭和史踏まえ、皇後、に泊る

よって、新憲法下における象徴天皇と国民との関係をいまいちなものにし、それが私たち戦後日本人としての主体性を対外的にも対内的にもいまだに確立し得ていない原因を作っている。だから新しい公共性の開かれたありかたを構想する上でも、「天皇に責任あり」という観点は必要である。

一方、橋爪氏は、戦前の天皇のおかれた立憲君主としての位置は、その厳しい制約条件からして、いかなる意味でも「責任」を追及される関係にはなく、彼は近代合理的な「天皇機関説」の当事者としてそのごく正当な仕方で振舞ったとするもので、いまさら天皇の戦争責任の追及には意味がないとする。

両者は結局、それぞれの観点を最後まで妥協を許していない。だが共通点もある。一つは、戦死者を「英雄」として救い出したあの戦争は正しい部分もあったとする保守派的な感情と、戦死者を天皇や軍部にだまされた犠牲者として、事後的に得た観念的な平和思想に立つことも進歩派的な感情との、二者択一の不毛な構図を超えようとしていることである。もう一つは、当時の不可避的な客観的情勢や生活者のおかれた状況への想像力を抜きにして、今の時点からの高みに立った観念的・道徳的な反省を繰り返すことは無意味であることである。

私の感想をいえば、帝国憲法下の天皇がたとえ形式的な君主

にすぎなかったとはいえない、しかも軍の統帥権の保持者として「聖断」をした本人である以上、政治的意味での責任は内外に對して生ずると考える。これは、一般に政治権力の機能といふものを考えるとき、外せない常識であり、また戦後その意味づけは、宙に浮かせて、また戦死者や戦争被害者の声に「こもる」感しない感情的根拠を無視出来ないと感じるからである。橋爪氏の天皇同情論は、政治構造論を逸脱した固執と、感ぜぬを免れない。その意味で、加藤氏のこだわりの賛同するが、彼の方にもささる違和感を感じる。それは、戦死者と現在の私たち日本人との間にもはや超えがたい心情的断絶感が存在する事実を封鎖して、日本の戦死者と自分自身の通路という個人的な執着(一種のナショナルな同化感情)を、日本国家の主体性回復のための絶対条件として普遍化し、若い世代をもその執着のうちに強引に取り込むようになっているからである。日本が、これから開かれた民主国家としてその営みをうまく展開していくためには、象徴天皇制の役割などについていままでも執着するより、それが戦後五十年間結果的にうまく機能してきた肯定面をむしろ評価し、その任務が美学的に終わりにかけている平成の今の時点から、それに変わる国民主権国家体制の整序のために何が出来るかを考えたほうが建設的ではないだろうか。(評論家)



定価 2900円

IT時代の行方とネットワーク社会

IT革命はどのような世界を生み出すか

橋爪大三郎

20世紀の後半、人類はコンピュータと共に歩んできた。

冷戦は、巨大科学である核開発、ICBMの軌道計算をするコンピュータなしには考えられなかった。やがてコンピュータは小さく安価になり、計算コストが劇的に低下して、いまやすべての工業製品に内蔵され、どのデスクにも載っている。

計算コストの劇的低下により、反復作業を中心とする事務労働、管理労働が合理化された。通信コストの劇的低下により、すべてのコンピュータがネットワークで結ばれることが可能になった。

21世紀初頭に起こるであろうIT革命は、さらにその先の局面を切り開く。これまで人間が「総合的に判断」しつつ行ってきたますます多くの活動を、コンピュータ・システムが代わって行なうようになる。金融工学やヒトゲノム計画は、その端緒である。

IT革命はやがて、さまざまな社会関係を変容させるだろう。地理的な制約も相対化され、都市は集積効果を独占できなくなって、その境界を消滅させるはずだ。こうした全面的な変化が、どのような世界を生み出すことになるのか、当日の討論を通じてさらに明らかになるとよいと期待している。

橋爪大三郎（はしづめ・だいさぶろう／東京工業大学大学院教授）
 東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。東京工業大学助教授を経て、同大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。理論社会学専攻。

〔著書〕『橋爪大三郎コレクション』（全三巻）『性愛論』『はじめての構造主義』『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『冒険としての社会科学』『民主主義は最高の政治制度である』『橋爪大三郎の社会学講義』『言語派社会学の原理』『こんな困った北朝鮮』ほか。

〔共著〕『自分を活かす思想／社会を生きる思想』『小室直樹の学問と思想』『電腦福祉論』『僕の憲法草案』『選択・責任・連帯の教育改革』

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

日時： 2000年10月31日(火)
 午後2～4時半(開場 午後1時40分)
 会場： 機械産業記念事業財団(TEPIA) 地下1階ホール
 東京都港区北青山 2-8-44
 TEL03 (5474) 6111
 主催： (財)情報処理教育研修助成財団

おまひ

2001年1月15日

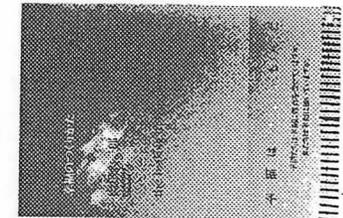
公明新聞

「教育改革」論議を考えるためのブックガイド

際立つ「学力低下」への危機感

硬直した「大人のまなざし」に注文も

一九九八年に社会経済生産性本部が出した「教育改革に関する中間報告書」は「大学入試の廃止」を打ち出したこと、話題を呼んだ。大学が大衆化した現在では入試には意味がないとして、廃止したら学生定員の廃止や成績が基準に満たない者へのキックアウト制(留年・中退)の導入を提案しているこの改革案は堤清二・橋爪大三郎共編著『選択・責任・連帯の教育改革【完全版】』として出版。この改革案の起草の中心になった東工大教授(社会学)の橋爪大三郎氏は『幸福のつくりかた』(ポット出版 一九〇〇年)【写真】の第二章「幸福な学校」で噛み砕いた形で「教育改革の基本的な考え」



「小・中学校の改革」「高校の改革」「大学の改革」について論じている。

同志社大学第125回

学ぶことと

2000. 11. 26

EVE祭記念講演

生きること

橋爪大三郎

主催：政治学研究会

(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション(全3巻)』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『性愛論』(岩波書店)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『ゴーマニズム思想講座 正義・戦争・国家論』(以上、共著、径書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏日書房)、『研究開国』(共著、富士通ブックス)、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』(共著、勁草書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『三島由紀夫vs東大全共闘1969-2000』(共著、藤原書店)、『天皇の戦争責任』(共著、径書房)ほか。
http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/

□1□ 学ぶことと、生きること

- 1) 「学ぶ」とはなにか ……ひとくちで言うのはむろんむずかしいが、たとえば、《前の世代の人びとが蓄えてきた知識や行動様式を理解し、それにもとづいて自らの知識や行動様式を再生産すること》と考えてはどうだろうか
- 2) 「生きる」とはなにか ……ひとはさまざまなものを自分が「生きる」ための手段として意味づけることができる。しかしこれでは、自分が「生きる」意味は空白のまま。自分が「生きる」意味を世界のなかに埋めもどしたとき、「生きる」ことが完結する。

□2□ 知識はどのように構成されてきたか

- 1) 文字と文明 ……文字の登場により、知識を、その担い手や、自然・社会的文脈から切り離して集積し、編集し、再構成することが可能になった。
 - ・表音文字～さまざまな集団は独立と固有文化を維持する～政治的分裂・教会による統合
 - ・表意文字～さまざまな集団は人工言語により統合される～政治的統合・中心/周縁図式
- 2) 知はどのように編成されたか——古代
 - * 法：慣習・生活形式の記述～多民族状況に対応→法典(法源)/判例/解釈+法学者
 - * 歴史：集団(統治)の正統性の記述～社会の神話起源・宇宙観～記憶と伝統の集蔵体
 - * 宗教：人びとが前提とする価値源泉の記述～信仰共同体→聖典/解釈→知識階層
 - * 哲学：思考の秩序(論理)の記述～「理性」の制度→法や宗教と結びつく→のちに分離
 ユダヤ教・イスラム教では宗教=法、儒教では宗教=歴史=政治、インドは歴史が希薄
- 3) 知はどのように編成されたか——近代
 - * 文学：取替え不可能な個人の独自性の表現→個々人の精神世界と社会的現実の分離
 - * 科学：個人が検証する外界の法則性の表現→個々人の共同作業としての真理への漸近
 キリスト教は個人救済であり、神は絶対。神を絶対とする個人も絶対化される。

□3□ 職業はどのように配分されてきたか

- 1) 狩猟・採取社会では、剰余生産物が生産・蓄積されず、階層分化が起らなかった。
- 2) 農業社会では、人びとは定着農耕に従事し、剰余生産→階層分化が起こった。
 - 農民/統治者(王・貴族)、職人、商人、軍人、神官…… 職業は原則として世襲
 - ・知識人の独身主義(キリスト教の神父、仏教の僧)は、世襲を不可能とし、公共財である知識をさまざまな階層の人びとが支え、享受することを可能にした。
 - ・ユダヤ教・イスラム教では、知識人は世俗の職業を兼ねた。儒教は試験で世襲に抗した。
- 3) 産業社会では、人びとはおおむね都市に居住し、近代的産業に従事する。
 - ・労働市場(職業配分機構) 人びとは生産手段を持たない→親から子に譲るものなし→職業選択の自由/教育の機会均等(→結果の不平等)
 - ・教育は、労働力の付加価値を高める →教育(社会的資源)をめぐる社会階層の形成
 - * 経済成長期 農村→都市の労働移動 教育・勤勉は報われる(就職・昇進・昇給)
 - * ポスト産業社会 農村→都市の労働移動がストップ(サラリーマン8割の社会)
 - 子どもは親の階層を越えない(人生の先がみえる) 教育・勤勉は報われない
- 4) 自由と競争 競争はやさしい
 - ・市場経済～競争～他者の承認で職業が継続できる →弱肉強食の過酷な社会か?
 - ・分業は、人びとが支えあい、承認しあって共に生きるメカニズム(競争は自由の代価)
 - ・競争は、職業(実社会)にあれば十分 →教育の場面に競争は必要ない
 - 初等中等教育～誰でも知っているべきことを学ぶ：資格試験が適当(競争は不要)
 - 高等教育～一部の人びとが学ぶ：コストを負担すれば誰でも入学できる仕組みに
 - ・現行の受験制度は、あるべき競争をなくし、なくてよい競争で人びとを消耗させている
 - ・学ぶこと(知識に対するアクセス)は、手段である以上に、目的であり喜びである

□4□ 再び、学ぶことと、生きること

- 1) 「知識人」の解体
 - ・教育が普及し、情報が行き渡って、社会階層としての知識人が解体した →よいこと
- 2) 「対立軸」(思考の枠組み)の解体 (←『天皇の戦争責任』竹田青嗣の序文)
 - ・自由主義経済(含：職業選択の自由)の対抗理念(マルクス主義)が崩壊した
 - 二項対立的問い(右か左か選択すると、自動的にすべての答が出てくる)の終わり
- 3) 多様性と価値相対主義
 - ・「知識」は商品となり、消費される →新しくないとだめ、でもすぐ古くなる
 - ・「知識」はよりどりみどり、でも(だから)自分の人生を根拠づけることはできない
 - ・価値相対主義は、立場としては成り立たない(→パラドックス)
- 4) 選択と価値
 - ・生きる：考えて結論がでなくても、選択=行動し責任をとる(結果を引き受ける)こと
 - ・行動するからには、「価値」が選択されている。行動したあとで、それは明らかになる
- 5) 学びながら生き、生きながら学ぶ
 - ・“学ぶ→生きる”の順番を疑おう。生きること(行動)は、考えるのをやめることではない。職業についてこそ、本当に考えられるようになる。
 - ・自分の行動と結びつけて考える(学ぶ)ことは、自分の人生を「創造」することだ。

経済同友会会員セミナー 平成12年度第12回 於：杉ルネオ-タニF梅の間
NPOの社会学 : 経営者はNPOとどうつきあう？
 2000. 11. 30 橋爪大三郎 (東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会学研究科価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればいいのか』『橋爪大三郎コレクション(全3巻)』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『性愛論』(岩波書店)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『ゴーマニズム思想講座 正義・戦争・国家論』(以上、共著、径書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『研究開国』(共著、富士通ブックス)、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』(共著、勁草書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『三島由紀夫vs東大 全共闘 1969-2000』(共著、藤原書店)、『天皇の戦争責任』(共著、径書房)ほか。
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ NPOとNGO

- 近代経済学モデル H: household 家計; consumer消費者 基礎消費する社会システム
 P: firm 企業 商品生産し利潤追求する組織
 G: government 政府 税金をとり多目的な活動をする組織
 それ以外のもの……教会、コミュニティ(地域社会)、大学、財団、任意団体など
 近代化は、中間集団が解体され、H、P、Gに還元されていく過程だった。
- NGO、NPOは、近代経済学モデルに対する、アンチテーゼ(反対概念)
 NGO = Ω ~ G NPO = Ω ~ P
 NPOへの寄附は、税金から控除される(なぜ?)

□2□ NPOの問題点

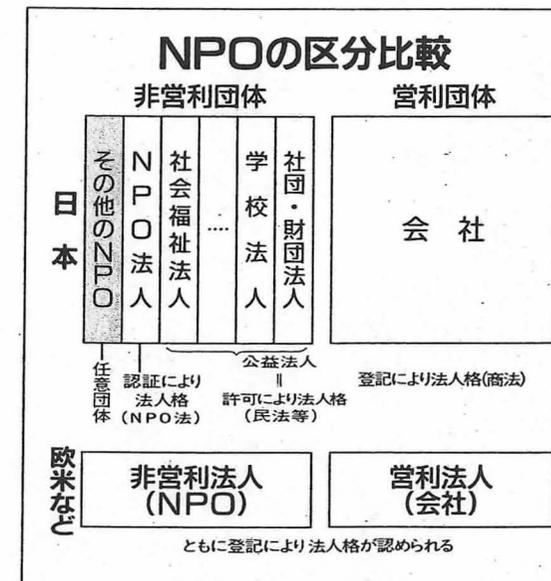
- 組織の評価関数(監査プロセス)
 G……選挙での信任(納税者の投票)
 P……商品が売れる(消費者の満足)/株主への配当(資本家の満足)
 H……結婚の継続(愛情の確認)・世代の再生産
- NPOは、明確な評価関数(監査プロセス)がない。
 宗教法人、特殊法人は墮落する(なぜ?) 欧米の場合/日本の場合
 大学、病院は墮落する(なぜ?) 欧米の場合/日本の場合
 →NPO同士の競争的環境、NPOを評価する外部基準が必要

□3□ 日本的なNPOの特殊事情

- 明治維新の秘密
 ・中間団体(藩、村落、講……)の解体 税(地租)の設定→国家による資本蓄積
 ・天皇-政府-企業・学校……個人(臣民)
 天皇制 すべての組織、個人は国家目的に邁進せよ NPO、NGOは不可
- 日本株式会社 すべての企業は監督官庁が指導する NGOは特殊法人
 ←総力戦体制の遺物 統制、指導、規制、許認可(GのPに対するヘゲモニー)
 ・政党(NGO)の未熟……Gが政策立案・決定を左右
 選挙区における、有権者の地方政党組織(NPO)が弱体
 自民党~個人後援会 公明党~創価学会に依存 共産党~民主集中制

□4□ NPOは次代のカギを握るか

- NPOは、プロジェクト・ベースの結社である
 NPOは共同体ではない 共同体:多目的で、存続を自己目的とする(含むG)
 →NPOは、契約にもとづいてH、P、G、NPOが資源を拠出し、運営に参画する
- NPOは採算がとれる(市場原理の内部で存続できる)とは限らない
 採算がとれるなら、企業化できる(企業化したほうがいい)
 NPOのプロジェクトに公共性が強い場合、税負担を免除され、採算点が低くなる
 採算がとれない場合、継続的な、資源の拠出(投入)が必要になる(一種の税)
- NPOは、市場経済のなかで、Pと共存する
 NPOがPでないのは、
 労働力資源の投入がボランティア・ベース(労働ではなく、やりたいことをやる やりがい重視) →自己搾取(やりすぎ)に転化する可能性あり
 資本・土地の投入がボランティア・ベース(公的資金、寄付金を集める)
- NPOとPが競争するなら、Pのほうがいいのでは
 日本育英会の奨学金(税負担は国民に) vs 銀行の奨学ローン(自己責任)
- NPOとGが競争するなら、NPOのほうがいいのでは
 国立大学(公務員の制約、予算の枠) vs 独立行政法人
 学生の配分: 競争試験(選択の自由がない) →入学自由(コストを負担)
 スタッフの配分: 教授会の自治(自己培養) →公募・競争
 資源の配分: 予算制・均等割り当て →申請ベース・競争・結果の審査
 Gは、サービスの対価を要求しにくく、顧客の個別の要求にも応えられない
- 地域通貨やクーポンとの関連
 市場: 貨幣のある交換経済 貨幣が異なれば、市場が異なる(例: 各国通貨)
 通貨とは異なる交換手段を設定しようとするれば、通貨との交換性を制限しなければ
 ならない 例: アメリカの食糧クーポン(転売できない)
 献血預金
 介護点数の貯金
 このような特殊通貨は、市場の交換(資源配分)を不完全とするので、市場本来の
 効率性はその分だけ損なわれる
 →それを上回るだけの、積極的な目的がなければいけない



朝日加センター 横浜
21世紀の思想を探る⑥

言語派社会学
とは何か

2000. 12. 10
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション(全3巻)』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『性愛論』(岩波書店)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『ゴーマニズム思想講座 正義・戦争・国家論』(以上、共著、径書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『研究開国』(共著、富士通ブックス)、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』(共著、勁草書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『三島由紀夫vs東大全共闘1969-2000』(共著、藤原書店)、『天皇の戦争責任』(共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

□1□ 社会学は、どのような学問か

1) 社会学(sociology)はどのような学問か、いざ説明しようとするむづかしい。

・社会学の印象〜つまらない、常識的、なんでもあり、雑学、掘りどころがない

2) 社会学は、どのような学問でないか

* 経済学でない 経済学：市場(貨幣を媒介とする商品交換)のメカニズムを研究
つまり、企業などの経済主体がどう行動するかを研究する学問

* 政治学でない 政治学：選挙などを通じた全体社会の意思決定メカニズムを研究
つまり、政府や国会などの立法・行政機関がどう行動するかを研究する学問

* 法学でない 法学：法を通じた紛争解決のメカニズムを研究
つまり、裁判所(ならびに、法に服する一般の人びと)の行動を研究する学問

⇒社会学は、社会のうち、貨幣や権力や法によって媒介されない、人間関係一般を扱う

3) 社会学は、近代の社会制度を前提としない(近代とそうでない社会を両方とも扱う)

cf 人類学も、近代の社会制度を前提としない ∴人類学は異文化としての社会を扱う

⇒理論社会学の野望：近代社会にも、それ以外の社会にも通用する、人間と社会の一般理論をつくって、経済学や政治学や法学や人類学をあとと言わせたい。

cf 理論言語学 個別の言語を扱う個別文法/すべての言語をカバーする普遍文法

□2□ 言語派社会学とは、どのような社会学か

1) 社会とは何か? 社会はどのように成立しているか?

* 社会：複数の人びと(身体)が集まって、互いに関係している

・現象学的リアリティ 他者や事物はすべて、自らの身体がとらえた限りで存在する

・唯物論的リアリティ 自らの身体は、他者や事物と同列のものとしてのみ存在する

cf 永井均は近著で橋爪・大澤真幸の議論を批判。橋爪・大澤は反論の必要なしと判断。

* 人びと(身体と身体)を関係させる可能根拠が、(広義の)言語である

人間-言語-人間 ←これ以上簡単にできない、社会関係の基本的なかたち

2) 言語とは 言語：形式〜身体の規則的な律動 <言語>：言語+言語的定在Dasein

* 言語の意味や規則を、言語によらないで伝える方法はない 例：小惑星が地球に衝突
言語の意味や規則を、言語のなかに書き込んで伝えても仕方がない

* 言語はなぜ、意味がわかるのか? 言語ゲーム language game ⇔ルール(規則)
有限個の事例(数列)⇒ルール(無数の事例に妥当) “……”：以下同様

1、2、3、5、8、13、…… わかった!によって、事例の列挙は不要に

* 言語ゲーム(ルール)の実態とは、人びとの「ふるまいの一致」。←根拠がない
すべての根拠のある信念の根底には、根拠のない信念がある

3) 言語派社会学：言語を社会現象の根底にすえる、理論的な立場

* マルクス主義、機能主義、現象学派の社会学に対抗 ミクロミクロ 意味+社会構造

* 言語に加えて、性、権力といった“間身体的作用”を基礎に、社会現象の総体を説明

□3□ 言語派社会学の主張

1) 既存の社会科学の実証性は、見せかけである。「社会諸科学の19世紀的配置」

・宗教/政治/経済/法/科学/言論……が制度的に分離し、自足的な領域となった。

→それぞれの領域が切り離され、互いに無関係に論じうるかのような仮象がうまれた。

* 既存の社会科学の基本概念は、制度的前提と結びついている ∴普遍性を持たない

2) さまざまな社会を横断する普遍性をもった基本概念で、理論を組み立てるべき

・人間-人間の社会関係にとって、もっとも基本的な間身体的作用 性/言語/権力

・基本的な作用にもとづく、社会空間の部分領域 親族/政治/宗教/経済/法……

3) 基本的な作用は、さまざまに組みあわせて、一連の社会形象→制度をうみだす
性/言語/権力は、制度に先行する ∴それらは、制度の内部&外部で作用する

□4□ 権力をどのように理解するか

1) 権力の制度：権力を制度の内部の作用として規定 ⇒かえって制度外の権力を前提

cf 民主主義・合法的支配→すべての権力は制度内で行使すべき→憲法制定権力の仮定

2) 権力のミクロ理論 例：宮台真司『権力の予期理論』勁草書房 権力〜被作為体験

・権力がどう体験されるかを記述 →権力の前提(制度、非対象性)を論じない

3) フーコーの権力分析：言説や行為など社会のあらゆる場所に権力の効果が及ぶ

→上の言明が正しければ、権力の作用を単離して観察することも、理論化もできない

4) 自由と権力の背理 自由(個人の意思による行為の自己決定) ↔ 権力(強制力)

・個人が完全に自由な主体であることと、権力が存在することとは両立しない?

5) 権力〜状況〜権力源泉〜状況環

・権力の作用を支えているのは状況(situation) 状況のなかに権力源泉が隠れている

・どんな行為/権力の現場にも露頭しない状況=状況環 状況環は不変の前提

・状況環は、行為に対する拘束性(権力)の最終的な根拠である

日報政経懇話会 (倶央会) 激動の20世紀、 2000. 12. 12
主催: 新潟日報社 ニッポンをふり返る 橋爪大三郎
於: 燕三条ツツミビル (東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう.....1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。社会学者。

著書.....『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション(全3巻)』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『性愛論』(岩波書店)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『ゴーマニズム思想講座 正義・戦争・国家論』(以上、共著、径書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『研究開国』(共著、富士通ブックス)、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』(共著、勁草書房)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『三島由紀夫vs東大 全共闘1969-2000』(共著、藤原書店)、『天皇の戦争責任』(共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 20世紀はどんな時代だったか

- 1) 総力戦体制: 国家が総力をあげて、経済・政治・言論...を動員し戦争に邁進する
- 2) 20世紀前半~世界大戦の時代
 - * 日露戦争 機関銃・トーチカ→塹壕戦→大量死・資源と人員の損失→消耗戦→経済力 1904-1905 日露戦争は、20世紀の幕開け、第一次大戦の前哨戦だった 戦時国債
 - * 第一次世界大戦 西部戦線、東部戦線の膠着→消耗戦→戦車、飛行機、毒ガス 前線(戦闘員)と後方(非戦闘員)の一体化 ナショナリズム(←国際主義)
 - * 第二次世界大戦 電撃戦、機甲部隊、機動部隊~戦車・飛行機によって膠着を回避 空襲・戦略爆撃(後方を破壊) ⇒ 原爆~前線と後方の区別が完全に消滅
- 3) 20世紀後半~冷戦の時代 冷戦: 当然起こる戦争が、核兵器のため不可能な状態
 - * 戦略核兵器を大量に準備して対峙 相互確証破壊: 先制攻撃を受けても反撃可能 総力戦の継続→軍事費の圧迫 日本GDPの1%、アメリカ7%、ソ連20% ABM条約~迎撃ミサイルの配備を制限~米ソの国土防衛は不可能 →恐怖の均衡
 - * SDI(スターウォーズ)~成層圏で迎撃体制を構築~アメリカ国土防衛 →均衡崩壊 NMDに後継される cf TMD(戦域防衛)~国土防衛はやらないということ
- 4) ポスト冷戦の90年代
 - * 改革開放・ペレストロイカ(社会主義の脱構築) →市場経済・外資の導入→国際化
 - * 全球化(グローバルゼーション) ~地球全体がひとつの市場となり、貿易・安全保障・情報などによって緊密に結ばれること 比較優位 comparative advantage
 - * 日本の失われた10年 ←東アジア経済の台頭/安全保障が不安定/アメリカの復活

□2□ 日本は、20世紀をどのように経験したか

- 1) 20世紀の前半~軍部の暴走
 - * 戦争目的の喪失 陸軍の仮想敵国~ロシア 安全保障→朝鮮半島防衛→日清、日露 日露戦争の勝利ののち、ロシアが弱体化→革命(ソ連)→軍縮・不況→陸軍の危機感
 - * 統帥権の独立 陰謀統発: 張作霖爆殺事件→満洲事変→日華事変(盧溝橋事件) 政府・議会在、軍をコントロールできない 満洲国建国、日華事変: 対ソ連戦の準備
 - * 国際的孤立 ワシントン体制(門戸開放、機会均等、軍備管理)に対する違反 国益→政略(外交)→戦略→戦術の序列が混乱 状況(偶然)に左右される 三国同盟 北進論/南進論 その場しのぎの政策決定 終戦の目算のない開戦

2) 20世紀の後半~アメリカへの依存

- * 戦後民主主義 アメリカによる保障占領下の改革 日本国民は主権者なのか? 日本国憲法(旧憲法の改正憲法) 第九条(戦争放棄) 第一~八条(天皇条項) 軍の解体、財閥解体、農地改革、教育改革 中央省庁の権限はむしろ強化された?
- * 経済大国への道 農村人口の激減→都市への人口移動→高学歴化・サラリーマン化 日本株式会社(年功序列・終身雇用)、地価神話、護送船団方式 ...経済成長下の平等
- * 自民党一党支配/霞が関の官僚優位 日本的意思決定メカニズム: 環境一定下の効率 ⇒湾岸戦争ショック~日本的意思決定の破綻 環境変化(危機管理)に弱い→停滞
- * アメリカの対日観 ひよわな花→Japan as No.1 →Japan パッシング(中国重視) アメリカの対日政策は明らかに変化 →日本はひき続きアメリカを重視し、中国を尊重すべきだが、そのためにも対米依存を脱し、日本の国益を自覚すべき。

□3□ 21世紀を迎える、日本の課題はなにか

- 1) 「政治的意思決定」能力の強化 国益を明確化→複数の政策案→論争→公開の決着
- * 政党改革 楽しい党員集会→有権者を向いた国会議員→政治資金は有権者から政党へ →政治改革は有権者改革 例) 次点歳費制、党員チケット制、霞ヶ関→永田町へ
- 2) 安全保障の再構築 統一コリアや中国の核に対して、アメリカの核の傘は有効か?
- * 米欧なみの磐石の平和を、東アジアに構築 ソフト路線...日本は中韓に不可欠の国に ハード路線...アメリカとの同盟強化(通常戦力)、TMD(戦域防衛)、自衛隊→軍に
- * 2020年危機: 20年後に中国の総合戦力は台湾占領を可能に それまでに打てる手を打つ
- 3) 経済発展戦略 成長鈍化・R&D拡大→資金の欠乏→公共投資・地方投資の抑制
- * 地方の財政自立 交付税の廃止、自主財源(企業課税、消費税)の確保 格差容認
- * 超高齢化→生産力人口の涸渇→企業は海外に 戦略産業育成(言語・食品・ポット関連)
- 4) 国際社会との良好な関係 人口爆発 1960: 30億→2000: 60億→2050: 150億?
- * 途上国支援(技術移転、教育、保健医療) cf 教育↑、所得↑⇒人口増加率↓
- * 人口増にみあって、一定の比率で各国から日本に永住を認めよ →国際的地位の強化
- 5) 地球環境への配慮 温暖化のもと、資源配分をめぐる先進国/途上国の対立は深刻
- * 炭素税を率先して導入 気候変動枠組み条約では、欧州と結びアメリカと対立せよ
- * 省エネ、省資源の技術開発 日本食(大豆蛋白、蒟蒻)、鉄道、マイクロマシン
- 6) 大胆な国内改革 ⇒誇りあるナショナル・アイデンティティを確立しよう
- * 科学技術創造立国 大学の改革と自由化 研究開国(大学を世界に開け)
- * 歴史 日本の過去を説明できるように アジア諸国と新たな協力関係を
- * 教育 学区制廃止、校長に権限を、高検の導入、高校&大学入試廃止、奨学ローン
- * 文化 箱もの→中身の予算 建築費の数%はアートに 図書館(図書費)に予算を例) 村おこし図書館(開いた建物にある分野のすべての図書を集める)+ペンション ふるさと林間学校(都市の小学校と契約、ひと月ずつ泊まりがけで移動学校) 田舎トランクルーム(団地や地域と契約、不要な荷物を格安で預かる) 沖繩復興老人村(老人ケアマンション+フィリピン看護学校+苗場マンション) 別な例) 旧国鉄赤字解消・老人クーポン: 老人+付添いに格安クーポンを配る。正規運賃の乗客がいない限り坐れる→年間10万(40万円分) 乗れば12兆円償却